

スポーツ健康学部

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

スポーツ健康学部は、卒業生アンケート調査報告書等からも、学部満足度が高く、教育内容やカリキュラム、設備に関する満足度も高く、少人数による質の高い教育が展開されている。こうした高い評価が得られている背景に学部のたゆまぬ努力があったことは、自己点検・評価シートの記載内容からも十分うかがい知ることができる。ただし内部質保証の体制や取り組み強化策、FD活動の充実、あるいは4学生の学習時間のための方策などについては、インタビューにおいて様々な施策が実施されていることが確認されたものの、今後は自己点検・評価シートにおいて具体的に記載されることが望まれる。また2020年は東京オリンピック・パラリンピックの開催年でもあり、これらビッグイベントにスポーツ健康学部の学生達がボランティアとして参加することも考えられる。社会連携・社会貢献の一環として期待したい。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

内部質保証の体制については、従前より3コース長に加えて教職関連の教員、アスレティックトレーナーや健康運動指導の資格に関わる教員を加えていたが、シラバスチェック時に改めてその体制を確認した。また、内部質保証の取り組み強化策、FD活動の充実、および4年生の学習時間確保のための方策を自己点検・評価シートに記載した。2019年12月に実施した学生モニター制度で2020年東京オリパラにおける学生のボランティア参加の予定を確認したので、1年先延ばしになった開催時に向けて確認した内容を検討する。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ健康学部の2019年度大学評価委員会の評価結果への対応のうち、内部質保証の体制について、3コース長に加えて教職関連の教員、アスレティックトレーナーや健康運動指導の資格に関わる教員を加えたことは高く評価できる。これによりシラバスチェックが適宜分担され積極的に取り組みがなされた。FD活動として、兼任教員にも参加を呼びかけ学部教育方法検討会(アクティブラーニングおよびFD活動について)が都心会場で開催された。学習時間に関しては、シラバスの内容に沿う学習時間を確保できるように、学部内に情報資料室、自習室を備えている。また、営業時間外の学部食堂も使えるように開放している。学生モニター制度で2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける学生のボランティア参加予定の確認を行い、1年先延ばしになった開催時に向けて確認した内容の検討を予定している。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

視野形成科目、専門基礎科目、専門基幹科目、専門科目、専門演習科目と段階的に教育課程が提供されている。入学した学生がスポーツ科学、健康科学、スポーツ社会科学(スポーツビジネス)の基礎を学び、その上で自分の興味・関心に合った専門的な知識・技能が得られるような教育内容にしている。特に演習科目においては少人数教育を実践している。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】

特になし

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等
・<https://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html>

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

1年次、「スポーツ健康学入門」で大学生活を送る上で必要な知識と学習に必要な技術を身につけ、教養として身につけておくべき「視野形成科目」も学ぶ。その上で2年次、「ヘルスデザインコース」「スポーツビジネスコース」「スポーツ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

コーチングコース」の 3 コースから将来を見据えたコースを選択し、より専門性の高い授業を受講できるカリキュラム編成としている。同時に専任教員の専門演習（ゼミナール）に参加することでさらに高い専門分野の学びを可能にしている。

【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ <https://www.hosei.ac.jp/sports/gakka/curriculum.html>
- ・ 2019 年度専門演習募集要項

③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

S A B

※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

「人間とスポーツ」、「生命倫理」などの人文社会系の科目から、「統計学」、「情報リテラシー」といった自然科学系の科目まで、本学部の学生にとっての基礎となる幅広い科目を用意している。また、1 年次に必修として用意されている「スポーツ健康学入門」では、大学生活への適応力を身につける。専門的な科目を受講する前提として、スポーツ科学及び健康科学分野の基礎となる「スポーツ運動学Ⅰ」、「機能解剖学」などの科目から、「スポーツ哲学」、「スポーツマネジメント論」などの科目まで幅広く配し、健康科学と社会との関わりを習得できるよう配慮している。コース科目を受講する前提として、専門科目の 3 つのコース科目の土台となる科目を配し、1 つのコースに偏ることなく学際的な領域を学ぶことができるよう配慮している。

【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 法政大学スポーツ健康学部 設置の趣旨等を記載した書類

④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

S A B

※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

初年次教育として「スポーツ健康学入門」を初年次春学期の必修科目とし、栄養教育、飲酒・薬物の理解から始まり、リテラシー（含む図書館利用）、プレゼンテーション、ライティング（レポート）の方法など大学の専門科目を履修するために必要な技術、さらに留学や大学院進学に関する情報まで提供している。また、付属校あるいは要請のあった高校へは教員を派遣し、模擬授業を通し大学講義の一部を提供している。さらに、入学前にスポーツイベントに関して英語で記述する課題を出し、入学後に課題に対する評価をフィードバックしている。

【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 2019 年度スポーツ健康学部シラバス

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

- ・ 「スポーツ健康学海外演習」として提携校である米国のボイシー州立大学へ短期留学を毎年実施している。
- ・ 「スポーツビジネス海外演習」、「スポーツコーチング海外演習」を新規に実施した。
- ・ 外国人客員教員（短期）を招いての授業を新規に開講した。
- ・ ERP あるいはグローバルオープン科目を開設し運営している。

【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・ 「スポーツビジネス海外演習（ニューヨーク、米国）」、「スポーツコーチング海外演習（ケルン、ドイツ+バルセロナ、スペイン）」を実施した。
- ・ ドイツから外国人客員教員（短期）を招き、春学期にスポーツメディアに関する授業を開講した。
- ・ 「総合英語」において外国人兼任教員 2 名を採用し、海外の最新情報を教育に反映できるようにした。
- ・ 現代福祉学部（中国語、フランス語）、スポーツ健康学部（ドイツ語）の初級者クラスを 2021 年度から学部横断で開講するための準備を進めた。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 2019 年度スポーツ健康学部履修の手引き

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 キャリア教育としては、教員がスポーツ・健康関連企業に関する情報提供や、「専門演習」「実習科目」を通してのインターンシップの奨励、サポートを行っている。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
<p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・学生への履修指導は、学年ごとに「新年度ガイダンス」「春学期終了ガイダンス」「秋学期終了ガイダンス」を開催している。 ・各種資格については個別の「資格ガイダンス」を行い、必要に応じて学年を分けるなどきめ細かな指導に取り組んでいる。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度スポーツ健康学部履修の手引き</p>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。 通常授業・演習を問わず、授業内容が当学部の学生に共通する進路に関係するような場合は、学習意欲や進路を考える際の一助となるよう、公開授業にするなどの工夫をしている。また「専門演習」においてはインターンシップや現場実習も取り入れ、社会と密接に関わっているスポーツ・健康分野ならではの学習研究と、将来の目標設定を実践の中で並行しながら考えられるよう、多様な場や機会を設けている。また各教員のオフィスアワーを明確にしている。それ以外の時間も、学生の研究室への訪問が容易になっており、履修相談・進路相談に随時、適切な対応を行っている。年間GPAが1.0以下の学生には連絡・面接等を行い、学生の状況を常に把握するよう努めている。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。 シラバスの内容に沿う学習時間を確保できるように、学部内にも情報資料室、自習室を備えている。また、営業時間外の学部食堂も使えるように開放している。</p>	
<p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度シラバス</p>	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。 ・特に実習科目においては、学生自身が考え、実践する中で知識や情報を得たり、学生同士で相互評価をしたりするなどの活動を通して学習を深められるよう取り組んでいる。 ・演習科目については、自ら課題を選択し、調査し、報告することを課題とし、学生主体のアクティブな学習形態としている。 ・学外での実習・演習科目に対して、学内での事前学習の時間を十分に設けている。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度シラバス	
⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※どのような配慮が行われているかを記入。 ・「総合英語」では、能力別に1クラス20～25名程度、7クラスで実施している。 ・「専門演習」では、1学年あたり10名前後の人数で編成されることを原則としている。 ・機材を必要とする実習あるいは実験科目では、学習の効率化のために事前に選抜き履修人数を調整している。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度シラバス、スポーツ健康学部履修の手引き	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・成績評価と単位認定については、各教員がシラバスの成績判定記載に基づいて適切に行っている。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度シラバス	
②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組み概要を記入。 ・質保証委員によるシラバスチェックにより、各教員の成績評価の方法を整合させている。 ・各教員に科目毎のGPAを確認するように促し、成績評価の偏りを減らすように努めている。	
【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】	
特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度シラバス	
③学生の就職・進学状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・1年生から3年生には、取得を希望する資格の調査を行っている。 ・4年生には、進路希望・内定獲得先・最終的な進路を4月のガイダンス、夏休みに入る前、冬休みに入る前の3回調査を行い、集計結果を教授会において共有している。 ・最終的な就職情報はキャリアセンターからの報告を得て教員に周知している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年教授会資料	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・成績分布、科目毎の不合格者、進級状況については集計し、その情報資料を教授会において共有している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度教授会配付資料	
②「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育、TOEFL テスト、「習熟度テスト」などを用いて、学部での学びを進めるための基礎的な知識や技能が身につけているかを確認している。 ・「海外演習」および各種海外留学への希望者数を用いて、国際通用性学修を確認している。 ・知識を実践知へ移行する学修成果を、教員免許およびスポーツ・健康関連の資格希望者数で確認している。 ・「専門演習Ⅲ」の希望者率、「卒業研究」の実施者率を用いて、専門科目の学修を確認している。 	
<p>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8 項目の学部アセスメントポリシーを設定した。 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度教授会資料 	
<p>③「学修成果の把握に関する方針（アセスメント・ポリシー）」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育の「スポーツ健康学入門」では、全員に向けての講義内容の学修成果をリアクションペーパーによって確認している。 ・TOEFL テストは、結果を学生にフィードバックするとともに、教授会でも得点の分布や変動を確認している。 ・「習熟度テスト」は、学年ごとの平均得点、自分の得点と順位を学生にフィードバックしている。 ・「海外演習」への参加者、海外留学者、教員免許取得者、スポーツ・健康関連の資格取得者、卒業研究実施者を教授会で確認している。また、「スポーツ健康学海外演習」のレポート、卒業研究の発表会によって学修成果を確認している。 	
<p>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年教授会資料 	
<p>④学習成果を可視化していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別に GPA の推移を教授会で共有し、コースごとの GPA から学習成果を確認している。また最終的な成果として卒業研究発表会での優秀発表者を選出して表彰した。 	
<p>【2019 年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度教授会資料 	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学年別の成績経過を一覧表にして、成績の変遷を視覚化し検証している。 ・特に問題と思われる学生に対してはゼミ担当教員あるいは執行部教員が個別指導を実施している。 	
<p>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019 年度教授会資料 	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※利用方法を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートの結果、自由に記載された学生の意見は執行部が確認し、必要に応じて教授会で共有している。 	
<p>【2019 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
・2019年度教授会資料	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・1学科の小規模学部なので、学生間、教員間の連携・支援は良好といえよう。 しかし、他コースと比べて教員数が少ないスポーツビジネスコースの科目、そのための教員のさらなる充実を図りたい。	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・オンデマンド授業を2019年度に1科目収録したが、実施の効果を検証したい。	

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学部では、学生の能力育成のために、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されており評価できる。1年生から4年生までのカリキュラムの順次性・体系性が確保されており、「人間とスポーツ」、「生命倫理」などの人文社会系の科目から、「統計学」、「情報リテラシー」といった自然科学系の科目まで、本学部の学生にとっての基礎となる幅広い科目を用意している。長期的には〈視野形成科目〉のさらなる充実に期待したい。初年次教育・高大接続に対する配慮として「スポーツ健康学入門」を必修科目にしている。学生の国際性を涵養するための教育内容としては、毎年実施の短期留学に加え、2019年度から「スポーツビジネス海外演習」、「スポーツコーチング海外演習」を新規に実施するなど取り組みが行われている。学生の履修指導と学習指導は適切に行われている。成績評価と単位認定は適切かつ厳正に行われおり、成績分布、進級などの状況は学部（学科）単位で把握されている。分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標が設定されている。</p>
--

2 教員・教員組織

【2020年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	
①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【FD活動を行うための体制】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学のFD委員会の意向を受け、執行部が中心となりFD活動を進め、質保証委員会が評価し、教授会で承認を得ている。 <p>【2019年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年9月28日、私学会館アルカディア、学部教育方法検討会（アクティブラーニングおよびFD活動について）、25名 ・2020年3月10日、学部棟B、C会議室、学部教授会（2019年度自己点検・評価活動について）、16名 <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</p> <p>9月の活動では兼任教員にも参加を呼び掛けた。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度教授会資料</p>	
②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年「法政大学スポーツ健康学研究」を発行している。 ・総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」に参画している教員からの活動状況を教授会等で共有している。 <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度教授会資料</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

<p>スポーツ健康学部では、大学のFD委員会の意向を受け、執行部が中心となりFD活動を進め、質保証委員会が評価し、教授会で承認を得ている。昨年9月に兼任教員にも参加を呼び掛けて、学部教育方法検討会（アクティブラーニングおよびFD活動について）が私学会館アルカディアで開催された。FD活動のさらなる充実を期待したい。毎年「法政大学スポーツ健康学研究」を発行し、総合型地域スポーツクラブである「法政クラブ」に参画している教員からの活動状況を教授会等で共有していることは評価できる。</p>
--

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関する事】	
1	中期目標	2018年度から始まった新カリキュラムの質保証に努め、現在の1年生が卒業年度を迎える2021年度には全学年において質の高いスポーツ健康学の学びを提供する。	
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質保証のためにシラバスの検討を継続する。 ・専門演習Ⅰ・Ⅱの履修希望者を増加させる。 ・2020年度諸語初級者クラス開講の準備を進める。 ・授業改善アンケートを参照する。 	
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会によるシラバスチェックの実施 ・専門演習Ⅰ・Ⅱの履修希望者数の推移 ・諸語初級者クラスの開講準備 ・授業改善アンケートにおける指摘事項を指標とする。 	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に質保証委員会によるシラバスチェックを実施した。 ・専門演習Ⅰ・Ⅱの履修希望者数は昨年度2年生88%、3年生82%、今年度2年生82%、3年生84%、と横這いだった。 ・現代福祉学部で中国語とフランス語の初級者クラス、スポーツ健康学部でドイツ語の初級者クラスを2021年度に開講するための準備を進めた。
		改善策	専門演習Ⅰ・Ⅱの履修希望者数の推移については、ある割合をクリアすることを目標とし、直近2年間を参考にその割合を80%とする。授業改善アンケートにおける指摘事項は、量的にも質的にも捉えにくいので、指摘事項を教員が確認した数を指標とする。
質保証委員会による点検・評価			
所見	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスチェックについては適宜分担され積極的に取り組まれた。・専門演習Ⅰ、Ⅱは座学授業では指導しきれない。繊細な教育が見込まれるので今後履修率を高める努力を期待したい。・英語以外の諸語履修システムの実現を期待したい。 		
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスチェックは今年度の方針を継続して頂きたい。・オリエンテーションの工夫で専門演習Ⅰ、Ⅱの履修率を高められるかもしれないこのための模索を期待したい。・他学部との調整を継続頂きたい。 		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関する事】	
2	中期目標	各教員が、学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む。学部教育の集大成である卒業研究（演習Ⅲ）履修をとおして創造性教育を推進する。	
	年度目標	授業相互参観、オンデマンド授業など学習意欲を高めるための工夫を推進する。卒業研究履	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		修者を増加させる。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数 ・オンデマンド授業への取り組み状況 ・卒業研究数の推移を指標とする。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数は、昨年度 10 件から今年度 18 件へと増加した。 ・オンデマンド授業コンテンツに 1 件応募・採択されて授業の撮影を実施した。 ・卒業研究数は、昨年度の 59 編から 74 編に増加した。
	改善策	次年度から始まるオンデマンド授業の様子を教員で共有し、応募を促す。卒業研究数を増加させるために、スポーツ健康学入門（基礎ゼミ）に配置されている各コースの研究・教育の時間にコースでの研究を具体的に伝える。また、卒業研究発表会に 2,3 年生の参加をさらに促す。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観が積極的に実施されたことは評価できる。 ・オンデマンド授業の拡充を期待したい。 ・卒業研究活動が積極的に行われたことは高い評価に値する。
	改善のための提言	この項目については、改善を要求することがないため次年度以降も継続して頂きたい。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	2018 年度から開始された新カリキュラムおよび 100 分授業移行後の教育効果を測定し評価する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目では習熟度テスト ・英語学力では TOEFL ・科目全体では GPA それぞれの平均値を向上させる。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度テスト ・TOEFL ・GPA それぞれの平均値を指標とする。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の習熟度テストは、新型コロナウイルス対応のため実施できていない。 ・TOEFL の平均値は、昨年度 4 月 427.8 点→1 月 424.0 点から今年度 4 月 423.2 点→1 月 422.9 点へとほぼ横這いだった。 ・GPA の累積平均値は、昨年度の 1 年生 2.40 点、2 年生 2.64 点、3 年生 2.53 点、4 年生 2.54 点から今年度はそれぞれ 2.48 点、2.69 点、2.63 点、2.48 点と、4 年生を除き微増した。
	改善策	TOEFL の結果を英語教員に詳細に展開する。
質保証委員会による点検・評価		
所見	教育成果の評価の指標となる TOEFL の平均値、GPA の累積平均値において、昨年度と大きく変化することはなく、100 分授業移行後も教育の成果は維持されていると判断できる。	
改善のための提言	今後も複数の観点から教育成果を評価するとともに、その結果の詳細を教員に展開することが求められる。	
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度を準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力する。特に留学生の募集人数である各学年 2 名を満たすよう努力し SGU を推進する。
	年度目標	それぞれの入試制度で定められた募集人数を満たす。特に留学生の募集人数を満たす。
	達成指標	それぞれの入試制度での入学者数/募集人数を指標とする。
	年度末	教授会執行部による点検・評価

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	S	
		理由	スポーツ推薦 6/6 名、付属校 29/22 名、自己推薦 14/15 名、トップアスリート 1/0 名、留学生 2/2 名、センター入試 16/15 名、一般入試 105/105 名となり、留学生の募集人員は満たした。	
		改善策	付属校の超過分を一般入試 A 方式の減数で吸収したが、健全ではない。付属校の入学生数を確認・調整する場を設ける。一方で、学部にとって望ましい資質・能力の学生を募集するための配分を検討する。	
		質保証委員会による点検・評価		
		所見	それぞれの入試制度における入学者数は満たされており、適切であると判断できる。また、留学生の募集人数も確保されている。	
		改善のための提言	引き続きそれぞれの入試制度における入学者数と留学生の募集人数の確保に努め、その配分の健全化が求められる。	
No	評価基準	教員・教員組織		
5	中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。		
	年度目標	年間を通して学部専任教員数を維持する。		
	達成指標	年度末の学部専任教員数/年度始めの学部専任教員数を指標とする。		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	2018 年度末 16 名/2019 年度始め 16 名であった。	
		改善策	学部専任教員数は確保されているが、今年度退官の教員 1 名分を早期に公募し、採用する。また、さらに専任教員を増員する方法を探る。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		学部専任教員数は規定教員数を適切に確保、維持されている。		
改善のための提言	学部の教育水準を確保するため、早期の専任教員 1 名の採用と、必要に応じて専任教員の増員の検討が望まれる。			
No	評価基準	学生支援		
6	中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。		
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムの明確化 ・学部におけるハラスメント等の相談窓口の明確化 ・学生モニター制度グループインタビューの実施 		
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスタイム、相談窓口の明確化 ・グループインタビューの実施回数を指標とする。 		
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価		
		自己評価	A	
		理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイム、相談窓口は履修の手引きに明確化した。 ・12 月に 1 回、グループインタビューを実施し、結果を教育支援課へ報告した。 	
		改善策	グループインタビューの実施回数を増やすよりも、参加学生を増やす、質問項目を予め検討するなどしてインタビューの質を高める。	
		質保証委員会による点検・評価		
所見		学生支援に関する取り組みは適切であり、教授会などを通じたフィードバックもタイムラグがなく、教育現場へのフィードバックも迅速に行えている。		
改善のための提言	グループインタビューに関しては、目標に掲げている参加学生を増やすことのほかに、現在学部が抱えている課題や取り組みを教員間にて議論したうえで質問項目を設定し、学生の意見を求めることも求められる。			
No	評価基準	社会連携・社会貢献		
7	中期目標	ボランティア活動など社会貢献を通しての気づきの教育推進		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	社会貢献・社会連携に関わる教育の場を増やす。
	達成指標	社会貢献・社会連携に関わる授業科目数を指標とする。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	・社会貢献・社会連携に関わる授業科目は、昨年度4科目で、今年度も同様に4科目であった。
	改善策	シラバスに記述された言葉で検索をかけた科目数なので、実質の貢献・連携を教授会などで確認する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	社会貢献、連携に関して、授業内にて取り組んだ内容のみ反映されているが、多くの教員が地域においてスポーツを通じた社会貢献活動を実施していることが考えられる。あくまでもシラバスにおける記載数によって判定上はBとされているが、改めて教員に確認することが望ましい。
改善のための提言	教授会での報告事項にて、活動した教員は定期的に内容について報告することを定めるなど、情報収集の方法についても検討することが望ましい。さらに、今後オリンピックの開催のため、より一層活動が増加することが想定されるため、課外の活動においても教員へ報告を促すよう依頼することが望ましい。	
【重点目標】		
【教育方法に関すること】のうち、卒業研究数を増加させることを最も重視する。スポーツ健康学入門（基礎ゼミ）に配置されている各コースの研究・教育の時間にコースでの研究を具体的に伝える。また、卒業研究発表会に2,3年生の参加をさらに促す。		
【年度目標達成状況総括】		
概ね達成されていると評価するが、指標の数を増加させることには限界があるので、ある程度の数を確保したら基準数を上回っていることを目標としたい。また、社会貢献・社会連携については、さらに具体的な目標、指標を設定し、それらをクリアするための方策を検討する必要があると考えている。		

【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

スポーツ健康学部における2019年度の中期目標、年度目標及び達成指標は適切に設定されている。年度末の目標達成状況では、オンデマンド授業への取り組みと、授業相互参観数、卒業研究数が顕著に増加したことは高く評価できる。

IV 2020年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	2018年度から始まった新カリキュラムの質保証に努め、現在の1年生が卒業年度を迎える2021年度には全学年において質の高いスポーツ健康学の学びを提供する。学部教育の集大成である卒業研究（演習Ⅲ）履修をとおして創造性教育を推進する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質保証のためにシラバスの検討を継続する。 ・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者を増加させる。特に4年生の学習時間確保のために専門演習Ⅲの履修希望者、卒業研究の実施者を増加させる。 ・2021年度諸語初級者クラス開講の準備を進める。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会によるシラバスチェックの実施 ・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数の推移 ・卒業研究数の推移 ・諸語初級者クラスの開講準備を指標とする。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	各教員が、学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む
	年度目標	授業相互参観、アクティブ・ラーニングなど学習意欲を高めるための工夫を推進する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数 ・アクティブ・ラーニングへの取り組み状況を指標とする。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	2018年度から開始された新カリキュラムおよび100分授業移行後の教育効果を測定し評価する。
	年度目標	・「習熟度テスト」の平均値60%以上を維持する。 ・2年次のTOEFLの平均値が1年次のそれを上回るようにする。
	達成指標	・習熟度テスト ・TOEFL ・GPA それぞれの平均値を指標とする。
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度を準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力する。特に留学生の募集人数である各学年2名を満たすよう努力しSGUを推進する。
	年度目標	それぞれの入試制度で定められた募集人数を満たす。特に留学生の募集人数を満たす。
	達成指標	それぞれの入試制度での入学者数を指標とする。
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保する。
	年度目標	年間を通して学部専任教員数を維持する。
	達成指標	年度末の学部専任教員数/年度始めの学部専任教員数を指標とする。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。
	年度目標	・教員のオフィスタイムの明確化 ・学部におけるハラスメント等の相談窓口の明確化 ・学生モニター制度グループインタビューの実施
	達成指標	・オフィスタイム、相談窓口の明確化 ・グループインタビューの実施 を指標とする。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	ボランティア活動など社会貢献を通しての気づきの教育推進
	年度目標	社会貢献・社会連携に関わる教育の場を増やす。
	達成指標	社会貢献・社会連携に関わる ・授業科目数 ・科目履修学生数 を指標とする。
<p>【重点目標】 専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数を増加させる。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次研修の「スポーツ健康学入門」において、各コースの研究・教育について紹介する。 ・学生による専門演習Ⅰのガイダンスを充実させる。 ・卒業研究の抄録集を学部生全員に配布する。 ・2,3年生に卒業研究発表会への参加を促す。 		

【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

2018年度からの新カリキュラムにもとづく中期目標、年度目標は適切であり、達成指標は具体的に設定されていると評価できる。

【大学評価総評】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

スポーツ健康学部の自己点検・評価は、適正に実施されていると評価できる。質の高い教育が提供されており、教育に対する学生の満足度が全学部中のトップクラスに位置している。ヘルスデザイン、スポーツビジネス、スポーツコーチングの3コースのコース長から組織される質保証委員会が編成され種々の改善のための取り組みがなされている。2019年度の卒業研究数は、前年の59編から74編に増加している。学習時間の確保や、学習成果の可視化に関しては、それぞれ学習内容の課題設定や、卒業研究題目の雑誌への掲載など、具体的な施策の検討を望みたい。学生の国際性涵養のために、「スポーツ健康学海外演習」として提携校である米国のボイシー州立大学へ短期留学を毎年実施しているが、2019年度には「スポーツビジネス海外演習（ニューヨーク、米国）」と「スポーツコーチング海外演習（ケルン、ドイツ+パルセロナ、スペイン）」を実施し、ドイツから外国人客員教員（短期）を招きスポーツメディアに関する授業（春学期）を開講した。また「総合英語」において海外の最新情報を教育に反映できるよう外国人兼任教員2名を採用し、現代福祉学部（中国語、フランス語）、スポーツ健康学部（ドイツ語）の初級者クラスを2021年度から学部横断で開講するための準備を進めた。これらの取り組みは高く評価できる。FD活動を充実させ、小規模学部のメリットを生かしてさらに改善の歩を進めることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。